

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区豊洲6-2-10キャナルプレイス豊洲2階
施設名	小学館アカデミーしんとよす保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

自然

〈テーマの設定理由〉

昨年度も「自然」をテーマにした活動を行ってきました。子どもたちは自然物に触れる中で、遊びを自ら広げ、多くの気づきを得ていました。木の実や葉、土、水などに触れながら、五官を使って感じることで、子ども一人ひとりの発想が生まれ、遊びが主体的に発展する姿が見られました。こうした経験は、子どもたちの「なぜだろう?」「やってみたい」という探究心を育む大切な機会となっています。今年度も、自然との関わりを通して、子どもたちが自ら考え、試し、発見する探究的な遊びを、さまざまな角度から深めていきたいと考え選定しました。

2 活動スケジュール

●日々の遊びの自然に親しむ環境を設定し、年間を通して継続的に行っている。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・色々な自然に興味を広がるように、自然に関わるイベント料金
- ・実施した活動後、表現あそびに広がるように、クレヨン、画用紙等
- ・実際の動物など生き物に触れられる経験がもてるような活動の提供のため、バス代・電車代・動物園、水族館入館料
- ・子ども一人ひとりの気づきを大切にするため、また無理のない活動にするように少人数グループに分かれて行えるようにする環境を整えるための、パーテーション

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

散歩や屋上の園庭活動を通して、木の実・葉・土・水・風などの自然物に触れる機会を年間を通して設けました。子どもたちは触った感触や匂い、色や大きさなどの違いに気づき、「これは何?」「どうして色が違うの?」と疑問を持ち、自然物を集めて比べたり、保育園に持ち帰って調べたりする姿が見られました。

こうした日々の罪重ねにより、自然とのかかわりが継続して、あそびの中で探究が深まる活動へと発展していくように環境を整えようと考えました。



体

①食や栽培に関わる体験

- ・移動果樹園のイベントを実施し、とうもろこし狩りを体験
食物がどのように育つのかを知り、食べ物への興味・関心を育てる機会とし、米つくり体験として、苗植えから収穫、脱穀までの過程を経験し、収穫した米を使用し、おにぎり作りを行い、育てる喜びと食へのつながりを感じられるようにしました。

②木や自然素材に触れる活動（木育）

- ・木育イベントを実施
様々な種類の木や木くずに触れ、気の香りや手触りなど五感を使って感じる経験を大切にしました。木の廃材を活用した制作活動は、子どもたちの表現の発想が広がりました。

③生き物・命に触れる活動

- ・魚の解体ショーを見学し、海の生き物や命の大切さに触れる機会としました。
図鑑を用いて自ら魚の種類を調べる姿が自然と見られ、興味関心の広がりにつながっていました。
動物への興味に広がったことから、動物園で様々な動物を実際に見る経験を実施し、何を食べているのか、どこの国に住んでいるのか等、子どもたちの疑問を大切にしながら関わりました。実際に動物と触れ合う時間も設け、食べ物や生態を体験的に感じ取れるようにしました。

④空への興味を広げる活動

移動プラネタリウムを実施し、星や星座、夜空の様子に触れる機会を作りました。
季節によって見える星座が変わることを知り、空や自然現象への興味関心が広がる姿が見られました。プラネタリウム体験後は、図鑑を用いて星について自ら調べようとする姿につながっていました。日常の戸外活動の中でも「今日は空はどんな色?」「星は見えるかな」など身近な自然へ意識を向けられるように関わりました。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

①食や栽培に関わる体験

移動果樹園のイベントでは、とうもろこしの実際の匂い、感触、収穫する時の力強さなど体験できました。「茶色いのは何」「とうもろこしはこうやってなってるんだ!」「すごい匂いだね」「これは赤ちゃんとうもろこしだ」など食材への関心が高まり、さらに収穫体験ができました。米づくりでは、苗植えから収穫、脱穀を経験し、「お米をはどうやって育つのか?」「どうして白いのか?」や育てる時に使用する土も「赤い土と黒い土があるんだね」「なんで赤い土なんだろう」「なんで黒い土なんだろう?」とたくさんの疑問や学びがありました。また、育てる・食べるという体験を通して、食と自然のつながりを実感することができました。



②木や自然素材に触れる活動（木育）

「この木は硬いね」「なんかいい匂いがする」「見てこれ木なの?」など、子ども自身の気づきがあり、素材の特徴を工夫しながら、思い思いの作品を作成していました。



③生き物・命に触れる活動

「ぬるぬるしてる」「かたい」「大きいね」など解体ショーや実際の魚に触れることで海の生き物の体のつくりや命の大切さに触れました。体験後も「この魚は何ていう名前かな?」「何を食べているのかな」図鑑を用いて魚の種類を自ら調べる姿が見られました。

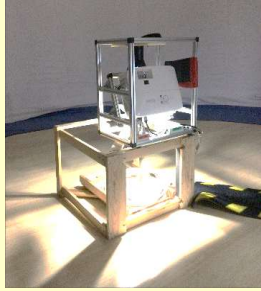
動物園では、実際の様々な動物を近くで見て、「しっぽながい」「ちいさくてかわいい」「かっこいいね」「どこに住んでるの?」「何を食べてるんだろう」「どっちが強いかな」など、食べ物や生息地、体の特徴などに関心を持っていました。

生き物との触れ合いを通して、命を身近に感じ、知りたい調べたいという気持ちが強くなってきました。



④空への興味を広げる活動

「あの星は〇〇にみえるね」「動いてる」「流れ星は願いを言うと叶うんだって」「どうして星は動くんだろう？」など新しい発見を共有し、自ら調べたり友だちと話合ったりする姿が見られました。空や宇宙という身近でありながら広がりのある自然への探究へつながる活動となりました。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・活動を通して、子どもたちは、自然・食・生命・宇宙といった色々なテーマに触れながら、疑問を持ち、自ら考え、調べ、発見する経験を重ねることが出来ました。
- ・自然物に触れる体験や、実際に見て・触れて・感じる体験を重ねることで、子ども一人ひとりが気づきを得て、それを遊びや調べる活動へと主体的に発展させていくようになりました。
- ・友だちや保育者との対話を通して、気づきを共有する中で、考えを深めたり、新たな疑問を持ったりするなど、学びの循環がうまれていました。
- ・自然を通した経験・体験は、感じたり自分で考えたり、知識を超えた学びにつながっていた。今後も、日常生活の中で自然との触れ合いを大切にしながら、子どもたちの気づきを大切に、問いから遊びを発展させていけるようにしていきたい。

